

鹽河床の凝

て古西寧城趾に達す。唯々見る高く土の堆積せる外、他に何物をも認めず。其れより張城堡、孫家營房、七里堡を過ぎ、房程約十二里、會寧城ホイニンに着す。

四日會寧を距る數丁の祖河を渡り、十里堡、雞兔咀チイトーチエインタオホ、櫻桃河ホを経て西鞏驛の道路に出づ。祖河ツホの渡河點は、幅約二百米突、水幅僅々五米突に過ぎず。橋なきも徒渉すべし。而して雞兔咀より西南は、道略即ち河床なるが故に出水の際は到底通行し難し。又會寧、雞兔咀間は一小平原を成せるも、祖河其間を迂廻し、且つ斷絶地多し。祖河は鹽分甚しきが故に、河床の凝鹽宛ら白雪に似たり。是日行程約八里西鞏シゴンに着す。

會寧一帶の土質脆粗にして、穴居に適せざるか故に従て土造の家屋多し。飲水は井、河共に鹽分甚しきに困り、雨水を蓄へて之を用ゆ。

五日西鞏を發し、王公橋を経て、青嵐山チンラン庄に到る。此處は其の名の如く、青嵐山海拔約六千五百尺の麓にありて、是れより此山に上り、三十里堡、十里堡等を過ぎ始めて下坂、行程八里餘、安定アンデンに入る。安定アンデンは人家約五百、磚製の城壁を繞らし、縣衙門及小學堂二個を有し、宗教は回教其の大部を占め、耶蘇宣教師孜孜として布教に勉む

安定縣